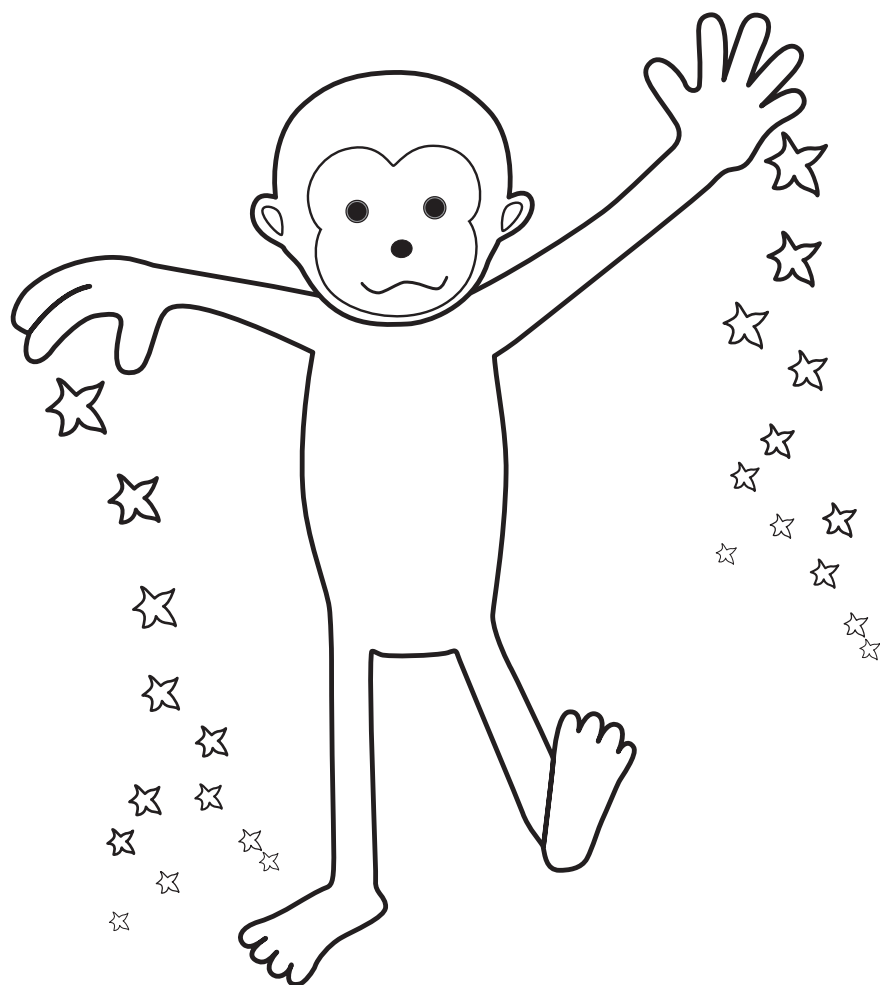


# オーレロ



## No.46 還暦記念号！

あの珍獣2人が京都へ侵略(進学)！ ウツン旅に出る？  
アートパークや表現展の情報などなど

### 神戸フリースクール改装のための募金ありがとうございました!!

おかげさまで、汚かった壁を塗りなおし、軒先に収納式の屋根をつけ、見やすい看板を作ることができました。大森さん 香川さん 木村さん 高野さん 屋葺さん、本当にありがとうございます。

#### 通信費カンパ ありがとうございました

水田 博道さん  
加藤 賢吾さん  
橋本 知子さん

#### メンタルフレンドのお知らせ

『心の友』・・・なんて大げさなものではないけれど、  
「不登校してて、ひとりで過ごしてるのがつまんな〜い」  
って思っている子どもたちのもとへ遊びに行く  
おにいさん・おねえさんがフリースクールで待ってま〜す!  
子どもたちの希望にあわせて、ピッタリの人を選びます。  
顔合わせの上で決定しますから、ご安心を。  
お問い合わせは、神戸フリースクールか  
不登校ネットワーク兵庫(078-366-0367)まで。

#### 集会案内

2月13日(金) “ぼくらの不登校”被災地キャラバンin宝塚 14:00~16:00  
淡路でのスタートから、今回で6回目。宝塚市立中央公民館のご協力を得て開催します。  
子どもと大人で不登校について共に語りたいと思います。  
場所:宝塚市立西公民館(阪急小林駅から徒歩3分)

2月20日(金) 仲間と楽しくクッキング 13:30~15:30  
神戸フリースクールのこどもたちとクッキーを作りませんか?  
不登校の子の中にはわりとお料理が好きな子がいたりするんですね。  
仲間と出会うきっかけになるかも。子どもさんの応募待ってます。  
場所:こべっくらんど調理室(JR神戸駅から徒歩5分ほど)

2月21日(土) こども人権フェスタ2004 16:00~19:00  
フリースクールとともに歩んできた青年たちが不登校について語ります。  
その他内容の詳細は通信内にて。  
場所:東灘区民センター別館小ホール(阪神魚崎駅から徒歩5分)

3月11~14日 アートパークフェスタ(表現展)2004 11:00~17:00  
神戸フリースクールをはじめとして、不登校の子どもたちのアート作品を展示します。  
体験コーナーもありますよ。  
場所:神戸アートヴィレッジセンター(神戸高速線新開地駅から徒歩5分)

3月13日(土) “ぼくらの不登校”被災地キャラバンin神戸 17:00~19:00  
今年度最終回を迎えます。  
子どもの不登校を大人はどう受け止めればいいのか、大人としてどのように支えることができるのか……一緒に考えませんか? 今回は親の会を兼ねたいと思います。ぜひお越しくださいね。  
場所:アートヴィレッジセンター会議室(4F)

※参加費はすべて無料です。気軽にお誘い合わせのうえ、お越しくださいね。

H.P - [WWW.FREESCHOOL.JP/KFS](http://WWW.FREESCHOOL.JP/KFS)

MAIL - [TOKASYA@HOTMAIL.COM](mailto:TOKASYA@HOTMAIL.COM)

お問い合わせ・TEL & FAX 078-366-0333

住所・兵庫県神戸市中央区下山手通8丁目8-10

**KFS**  
KOBE FREE SCHOOL

## 不登校の世界： 45年前の記憶

田辺 克之

おそろおそろ学校を休んでみる。親（実際には親代わりの伯母）が気づかないよう、時刻には家を出たものの、足は学校とは逆の方向に向いている。六甲山のふもとにある白鶴美術館の横の道を住吉川沿いにぶらぶらとあてもなく歩く。川の上流に近づくと、そこには昼前となり、弁当を開く。林の中では小鳥のさえずりと枯れた草が風でこすり合わせる音しか聞こえない。ときどき野犬の遠吠えにびくつきとして身構えることもあったが、いたっておだやかな時間が流れていく。

校生はそんな毎日、うんざりしながらも登校を続けていた。ところが暴力はエスカレートし、トイレで集団暴行を受けたり、帰り道待ち伏せられたり、思い余って校長に直談判に赴いたけれど、校長の口からは「卒業まであとわずかのことだから、辛抱してくれよるか」という気の抜けるような返事が帰ってきた。その日から転校生の不登校が始まった。これは45、46年前の神戸市東灘区住吉町で起こった僕の体験である。学校への信頼と期待を捨てざるをえなかった苦い体験である。今のいじめも昔のいじめも陰湿なことに変わりはない。いじめの側が複数なら逃げるのが一番だと僕は考えたのだと思う。あてにしていた教師がなんの役にもたないこと知って、だれにも相談せず不登校を始めた。母親は入院中で、父親は長期不在、兄弟が親類の家に分散して預けられていた時期だけに、自分の身は自分で守るしか

ないと判断したのだろう。我ながらたくましい少年だったなあとと思う。今年、とうとう60歳をむかえ、フリースクールの子どもたちや青年らに盛大に祝ってもらい、ありがた

歩いてきた60年をふりかえると、まあまあかなと思ふ。悔いはない。阪神大震災で自宅も教室も全壊したけれど、けろつとして毎日を楽しんでいる。さてもう10年生きていくのだろ



## 明石のフリースクール活動は…

明石での活動を開始してから半年が経ちます。まだまだ軌道に乗るには時間がかかりそうですが、それでも、月・木には子どもとスタッフでランチを作ったり、ぬいぐるみを作りながら時間を過ごしています。

始めのころは、早く広報活動を広げなくてはと思っていましたが、活動しているうちに、4月まではこのままのんびりすごしていればいいのか…と思うようになりました。まずは私たち自身がどっしりと腰を据えてのんびりすることが先だと思ったわけです。今年に入り、子どもたちから予定表の提案があり、早速今月はとてもステキなものことができました。「来月のアートパークフェスタに向けて、いろんなものを作ろう!」とめいちゃんやあやちゃんはヤル気満々です。

市民サポートセンター明石の協力を得て、窓からは淡路島と明石海峡大橋の見えるとても快適な空間で、お茶を飲みながら創作活動に励んでいます。月・木の11:00～17:00にあげています。遊びに来てくださいね。（電話：078-917-8093）



## 本のあれこれ 大石寿子

私の本の買い方は、時間のある時は本屋さんに行って、まずは好きな作家の棚をチェックして、それからたくさんの中をワクワクしながら動きまわっていると、むこうから何か合図があって呼ばれて…手に取る。

題を見て、作家を見て、ちょっと内容が書いてある腰巻とか裏表紙を読んで1ページ目に目を通し、ピンとくれば…買いですネ。ただ問題は値段を見ないので、カウンターまで持っていって合計金額を言われガクゼンとすることがある。

新聞に載ってる書評・コラム・宣伝などは必ず読むし、近頃は「ダヴィンチ」も愛読して新刊書の情報は楽しみにしている。どういうわけか、私がおもしろいと思うような本は、ベストセラーとか今月のおすすめ本になったことはあまりないけれど、はまりこんでセッセと読んでた人が直木賞とか芥川賞をとった時、なんかうれしかったりする。賞をとった本より、こっちの方が私はおもしろいと思うのになあ、なんてこともあるけど。

写真家・画家・染色家・冒険家といわれているような人たちもエッセイとか何かあるので、そういうのも小説よりもおもしろかったりするので読む。とにかく、おもしろいなあ、ストーリー展開がうまいなあと思える本を見つけたら最後、その作家の作品は徹底的に読みまくり、見つけ次第買うので、同じ本なのに他の出版社から出ているのを「あっ、これ読んでない!」なんて内容も確かめずにうれしさのあまり買ってしまい、読み始めて「ああこれは…」とガックリきたことは何度もある。

さて、今回この1ヶ月のうちに読んだ私の「あーおもしろかった」と思う本…

梨本香歩さんの『からくりからくさ』と、それに前後した内容のつながりのある『りかさん』。どちらも文庫だけど、表紙の絵・色・題名にひきつけられた。『からくりからくさ』は染色、織りなどを仕事にしている4人の女性の古い家での共同生活。こんな世界もあるんだ、こうやって生きていくのもありなんだと思ったりした。人形・草木・着物・民族・積み重なった歴史・つながっている人生、いろんなことがからみあって複雑だけど…おもしろかった。そう思う人は、すぐ『りかさん』も買って読みたくなると思う。それに『西の魔女が死んだ』も。コミックでは大島弓子さんの『つるばらつるばら』。主人公たちのせつなくなるような心模様の描き方は、榛野な恵さんの『papa told me』と双璧。このところ現実の生活があまりにもリアルでしんどいことが多かったので、読む本はせつなくあたたかく幸せなものが読みやすかった。

## こんにちは

屋簷 智子

こんにちは。12月に入学した屋簷麻里の母です。娘とKFSとの出会いは、昨年10月の西宮北口での集会でした。と書くところ、あふれたこのようすが、実は少々ドラマティックな出会いなんです。3回連続だったこの集会の1・2回目を欠席した私は、フリースクールの子どもたちの声が聞けるといふ3回目にはぜひ行きたいと思い、1人で参加するつもりでした。前日の夜、麻里に「あした、こんな講座があるから行ってくるね。」と言ったあと、ふと、「ねえ、一緒に行ってみない?」と言いました。多分同じ年ぐらいの人の話が聞けると思うよ。他の不登校の人がどんな生活をして、どんなことを考えてるか、知りたくない?」と誘ってみると、珍しく「じゃあ行ってみる」と返事したのです。

集会の感想はまたの機



会にさせて頂いて、2人で来たことに満足して帰路についた時、麻里がこんな風に言ったのです。「思ってたのと全然違って、今日来てよかった。私、このフリースクール見学してみたい。」もしあの時、集会に誘わなければ…麻里が行くと言わなかったら、この出会いはなかったか、もつとずつと先のことだったでしょう。だって麻里はフリースクールに行くつもりが全然なかったのですから。愛依ちゃん、彩ちゃん、蘭ちゃん、あなたたちの声が麻里に新しい扉を開いてくれました。本当にありがとーそしてこれから、親子共々よろしくお願ひします。

## 神戸フリースクールが そして僕も

リニユーアル

保護者のみなさんにカンパを呼びかけて、新学期早々フリースクールの外壁の塗装及び看板の製作と設置に雨よけのテントをと工事完了し、かわいいう霧囲気のフリースクールに生まれ変わって、子どもたちは「かわいい看板やなあ」とか「あつたかい色や」と満足してくれ、近所の人たちからも「きれいな言葉葉をいただいた。明石の教室が地震で全壊してからすでに9年、この地に移つてもう7年、子どもたちにとつてかけがえのない思春期のひとコマひとコマがこの場所に刻まれていく。一緒に汗を流して走ったり、田んぼで泥んこになつたり、一日中笑い声が絶えず、あんなに落ち込んでいた子が見る見るうちに元気になっていき、いのち



克

☆ ご協力いただいた保護者の皆さまから約35万円のカンパが集まり、感謝しています。ただ工事費総額は45万円です。もう少し不足していますので、オリレコ会員にもカンパを募ります。郵便振込用紙を同封しましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。

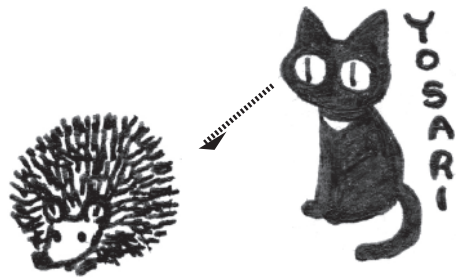
さえあればなんて言われてた子も不思議な力を得て中学卒業後の進路を考えている。どんな変化も成長していく青春まつりの中の子らに伴走させてもらえる僕は、毎日毎日リニユーアルされていくように感じる。



## KFSの 日常生活

奥野 江里子

朝、十時にKFSのシャッターは開かれます。早く来たメンバーは、まず、畑の植物と猫の様子をみたり、水槽の熱帯魚を気づいたりします。そのあとは、ストーブの辺りに集まっておしゃべりなどしながら、のぼのぼとした時間を過ごします。BGMには誰かのギター生演奏が流れていたりします。みんな好きなことをするので、おしゃべりの輪のメンバーは順列組み合わせみたいに入れ替わっていつも話題が尽きることはありません。気が向かないとき、適当に休むのは自由だけど、誰かが欠けているときみしいので、いつもの時間に来ないメンバーを「今日は遅いね」と言いながら、なんとなく待っていたりします。こんなぬくぬくしたインドア派の過ごし方も楽しいけど、KFSはスポーツや冒険といったアウトドアも得意です。月一の割合で遊びに行く体育館では、チームプレイが重要なバレーボールが人気です。負けたりチームのメンバーは本気でくやしがつて、「また、勝負しよな」ということで、次のイベントにつながっていきます。生徒が帰る時間は午後四時。楽しい雰囲気はなかなか断ち切ることができず、さつさと帰ることができません。でも、明日会えるのを楽しみに、バイバイを言います。



## こども人権 フェスタ2004 のプログラム

子ども人権フェスタを開催する日が近づいてきました。子どもの事、世界の事を一緒に考えませんか？ 今回のプログラムは以下のとおりです。

今年は、フリースクールで長年活動してきた青年たち3名が、不登校を振り返って子ども時代の集大成として語ります。不登校になったとき、フリースクールでの活動、そして現在に至るまでの思いを、それぞれに語ってもらえると思います。不登校の子どものための思いを知りたい方にぜひ聞いていただきたいもののデス。また、障害児教育に長年携わっておられる高野さんをお迎えして、最近話題になっているLD(学習障害)等の子どもたちの生きづらさについてお話しいただきます。「ちょっと変わった子...」と思われがちな子

どもたちですが、その感性はユークでとてもおもしろいものがあります。子どもたちへの理解を深めましょう。

さらに、昨年12月に起こったイラン地震の支援活動をするために先月イランを訪れたCODE(海外災害救助市民センター)の斉藤容子さんから、地震のその後を報告していただきます。

締めくくりは、子どもたちの歌と、けんた・らん・おぐてら・しろまぐんのバンド演奏。会場のみなさんも一緒に歌ってほしいデス。

休憩には、神戸フリースクールの子どものおもてなしがあります。この日のために軽食を用意しますので、お楽しみに！



## 真冬の物語

TERA

新年を迎え約1ヶ月。1月29日深夜、月夜に見送られKFSのメンバーは夜行バスに乗り込んだ。睡眠のとれた者、取れなかった者、それぞれだった。それでも朝日が昇る頃、バスはその場所ですぐ停車した。スカイバレー。そこは兵庫県内のさして大きくない、けれどさして小さくも山奥にある。二行はバスから舞い降り、踏みしめる雪の感触を確かめた。長い階段を足を滑らさないよう慎重に上り、ある施設へと踏み入ってゆく。十五分後、施設の前に集合した者たちは、皆、各々の「戦闘服」を着込んでいた。その、二種異様な集団は、しかしその場所に溶け込んでいた。それぞれ手に持っていた刀、ないし二刀の「武器」を装着し、無機質に流れるマシンに乗り込み、それぞれの戦場へと繰り出した。

——なんて妙な文章を書いてみたものの、つまりは一言、新年早々KFS「二行はスキーに行つてまいりました。といつても、半分以上のメンバーはスノーボードをやつていました。初心者も上級者も一緒になって、和気あいあいと、普段物珍らしい雪の山を楽しみました。特に、スノーボードに始めて挑戦したみんなは、百回近く転んでいたんじゃないかと思えます。もうスノーボード歴三回目になる田辺先生なんかは軽やかにターンの練習をして、派手に転んで、今でもひざが痛いと言っています。……ってあれ？ 初めてで中級者用の下山コースに挑む勇気無謀？ な子どもも多く、転がり落ちるように、それでもみんな満足した顔で楽しんで帰ってきました。もちろん『来年も行こうね』と微笑みながら。まあもちろん、ほぼ全員が帰ってきてから二三日は全身筋肉痛にさいなまれたのですが……

